

Course number		U-LAS06 20008 LJ41					
Course title (and course title in English)		裁判制度入門 Introduction to the Judicial System		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Law Professor,TAKAO KOKUBO	
Group	Humanities and Social Sciences		Field(Classification)		Jurisprudence, Politics and Economics(Issues)		
Language of instruction	Japanese		Old group	Group A		Number of credits	2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters	2024・Second semester	
Days and periods	Tue.4		Target year	All students		Eligible students	For all majors
[Overview and purpose of the course]							
<p>我が国の裁判制度は、近代西欧の制度を明治期に移植し、その後の社会の実情に即しながら発展してきたという沿革を持つ。制度そのものは、1889年公布の大日本帝国憲法下で一応の確立を見たが、1946年公布の日本国憲法の下で大きな変容を遂げた。1999年からおよそ10年間にわたる戦後最大のいわゆる司法制度改革に伴い、民事・刑事・行政・労働の各分野に広範囲に及ぶ制度改革が行われた。</p> <p>本講義では、これら裁判制度を巡る大きな変動に着目して現下において進行している各分野への影響と関連する諸問題等を念頭におきながら、21世紀における司法の課題と展望を考察するに不可欠な視点を得ることを目的とする。</p>							
[Course objectives]							
<ul style="list-style-type: none">・裁判制度に関わる組織とその担い手、民事・刑事・家事・少年等の各分野の手続の仕組み等についての基本的な知識を習得する。・学んだ内容を通して、裁判が社会・経済に及ぼす影響を正しく理解する能力の向上を図る。・基本的な法的思考方法（リーガルマインド）を身につける。							
[Course schedule and contents)]							
<p>基本的に以下の計画に従って講義を進める。もっとも、講義の進展状況や受講者の理解状況を見極めながら、順序や同一課題についての回数を変更することがある。原則としてzoomを利用してライブ授業を行う（授業中に教員から受講生に適宜発問することにより、講義とともに同時双方向性を一定程度確保した授業を実施する予定）。また、フィードバックの方法は別途連絡する。</p>							
第1回 イントロダクション（講義概要と司法権の意義など）							
第2回 裁判所の組織とその担い手							
第3回 検察庁の組織とその担い手							
第4回 弁護士の業務とその組織							
第5回 裁判制度の担い手の養成							
第6回 民事紛争解決システムの概要 1 民事紛争とその解決手段について その1							
第7回 民事紛争解決システムの概要 2 民事紛争とその解決手段について その2							
第8回 民事紛争解決システムの概要 3 民事訴訟について その1							
第9回 民事紛争解決システムの概要 4 民事訴訟について その2							
第10回 刑事裁判の概要 1 刑事実体法について							
第11回 刑事裁判の概要 2 刑事手続法について							
第12回 家庭裁判所の役割 1 家事事件の概要							
-----Continue to 裁判制度入門(2)-----							

裁判制度入門(2)

第13回 家庭裁判所の役割 2 少年事件の概要

第14回 現代社会と裁判制度～司法制度改革の到達点と残された課題～

第15回 フィードバック

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

小レポート（3回、計100点）により評価する。

小レポートは全回提出を必須とする。

なお、提出した小レポートは返却しないので、各自、その写しを用意して、講評に備えること。

[Textbooks]

市川・酒巻・山本『現代の裁判〔第7版〕』（有斐閣）ISBN:978-4-641-22095-9

なお、「六法」は必携である。ただし、種類が多いので、第1回授業の中で選択に関するアドバイスをする。

[References, etc.]

（References, etc.）

授業中に別途指示する。

[Study outside of class (preparation and review)]

授業に先立って配付するレジユメに記載した資料（教科書等）の関連ページを検討した上で授業にのぞむこと。

[Other information (office hours, etc.)]

裁判制度に関心を持つ者であればどのような学部にも所属する学生も歓迎する。

[Courses delivered by instructors with practical work experience]

(1) Category

A course with practical content delivered by instructors with practical work experience

(2) Details of instructors' practical work experience related to the course

該当教員：小久保孝雄、実務経験：裁判官約36年

(3) Details of practical classes delivered based on instructors' practical work experience

裁判官として、裁判事務・司法行政事務を担当した経験を踏まえ、その実情や課題について講義し、裁判の実相を伝える。